

# 平成29年度全国学力・学習状況調査

## ＜長崎県の結果の概要＞

### I 調査の概要

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 実施対象

県内国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

- 小学校調査…小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校調査…中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

#### 3 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

- 国語、算数・数学

…主として「知識」に関する問題をA問題、主として「活用」に関する問題をB問題として調査

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

##### (2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### 4 調査期日 平成29年4月18日（火）

#### 5 調査実施校数及び児童・生徒数

- (1) 実施校数 502校（調査対象者の在籍する学校の総数 502校）  
（小学校：324校、中学校：178校）

##### (2) 参加児童・生徒数

- 小学校6年生 約11,300人
- 中学校3年生 約11,400人

## Ⅱ 全国学力・学習状況調査「結果の概要」

### 1 平均正答率

< 県全体（公立小・中学校、県立中・特別支援学校） >

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	73	75	56	58
	算 数	78	79	43	46
中学校	国 語	77	77	72	72
	数 学	64	65	48	48

< 県立中学校（3校）の平均 >

教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
	本 県	全 国	本 県	全 国
国 語	95	77	94	72
数 学	89	65	78	48

< 参考1 > 平成28年度の調査結果（公立小・中学校、県立中・特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	72	73	57	58
	算 数	78	78	47	47
中学校	国 語	75	76	67	67
	数 学	62	62	43	44

< 参考2 > 平成26年度小学校6年生（現中学3年生）の調査結果

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国 語	72	73	54	56
	算 数	78	78	57	58

※平成28、29年度の数値は文部科学省が公表したデータによる。

※平成26年度の数値は、文部科学省が公表したデータをもとに整数値に変更したもの

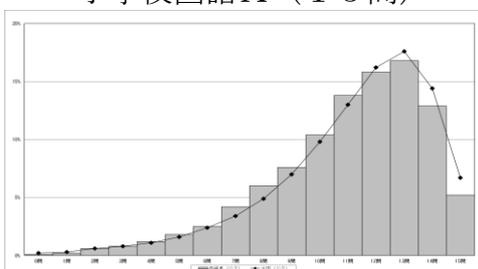
## 2 結果の総括

- ◇ 本年度は、小学校調査において、全国平均を1～3ポイント下回った。中学校調査においては、全国平均と同程度であった。
- ◇ 本年度の中学校3年生について、今回の結果と小学校6年生（平成26年度）時の結果とを比較すると、改善が見られる。
- ◇ 複数の情報を整理しながら理解したり、自分の考えをまとめたりすることについては、継続的な課題である。また、小学校においては、基礎的な知識・技能の定着についても課題が見られた。
- ◇ 昨年度に引き続き、道徳性が高く、多くの児童生徒が学校生活を肯定的に捉えている。

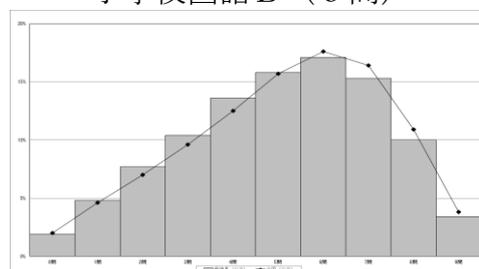
## 3 正答数分布グラフ

【横軸：正答数、縦軸：児童生徒の割合（1目盛5%） 棒グラフ：長崎県、折れ線グラフ：全国】

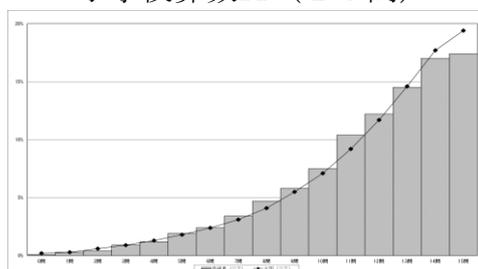
小学校国語A（15問）



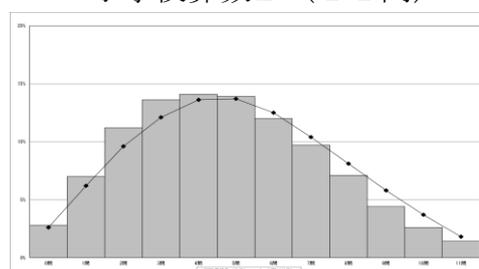
小学校国語B（9問）



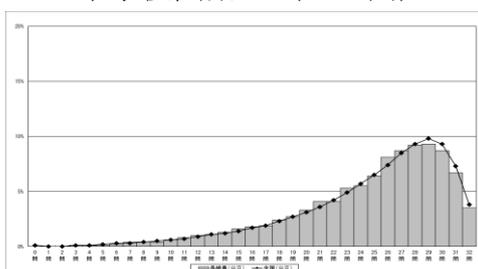
小学校算数A（15問）



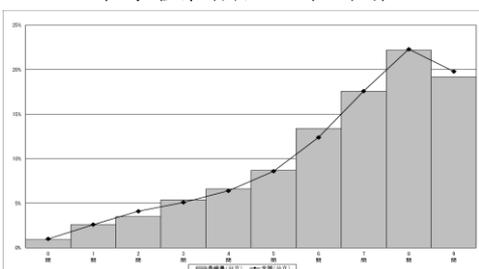
小学校算数B（11問）



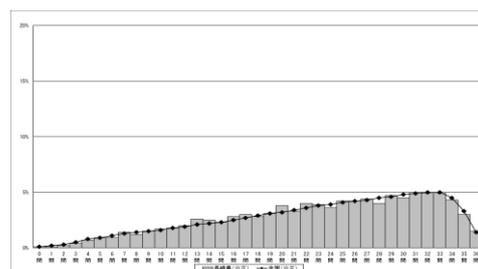
中学校国語A（32問）



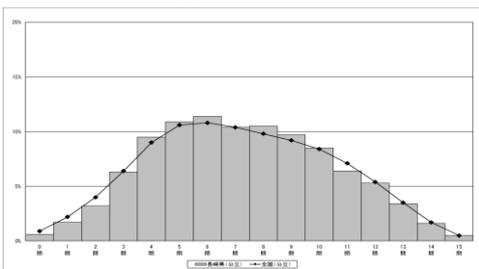
中学校国語B（9問）



中学校数学A（36問）



中学校数学B（15問）



すべての分布グラフにおいて、全国と同じ傾向を示しているが、小学校B問題では、正答数が少ない児童の人数の割合（グラフ左側）が全国よりも高くなっている。

## 4 各教科の状況

○：改善または定着が見られる事項    ●：課題となる事項  
( )内は問題の番号

### <小学校国語>

- お礼の手紙の内容を説明したものとして適切なものを選択する (A<sup>2</sup>一)
- 文章の読みを生かして話し合う場面で、会話文の空欄に入れるべき言葉を選択する (B<sup>3</sup>一)
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く (A<sup>7</sup>(1))
- 協力依頼の文書の一部について、必要な内容を整理し条件に従って書く (B<sup>2</sup>三)

別添資料1

### <小学校算数>

- 小数の乗法計算において、整数に置き換えて考えることを理解している (A<sup>1</sup>3)
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現する (B<sup>1</sup>2)
- 表の合計欄に入る数を書く (A<sup>9</sup>2)
- 示された式の中の数が表す意味を表と関連付けながら正しく解釈し書く (B<sup>4</sup>1)

別添資料2

### <中学校国語>

- 文書の空欄に書き加えるべき事柄として、適切な情報を選択する (A<sup>5</sup>二)
- アンケートを活用し、見通しをもって必要な情報を集める (B<sup>3</sup>三)
- 話合いの結果を記録するための簡潔な熟語を考える (A<sup>9</sup>五)
- 比喻表現に着目して文章を読み、その感想を条件に従って書く (B<sup>1</sup>三)

別添資料3

### <中学校数学>

- 平行移動した図形をかく (A<sup>4</sup>2)
- 数量の関係や法則などを的確に捉える (B<sup>2</sup>1)
- 等式  $x + 4y = 1$  を  $y$  について解く (A<sup>2</sup>4)
- 資料やグラフなどを適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明する (B<sup>5</sup>3)

別添資料4

## 5 質問紙調査の状況

<学習状況・生活習慣等の調査結果について>

- ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人が困っているときに進んで助ける」と思っている児童生徒の割合は、昨年度に引き続き非常に高く、全国平均を上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのが楽しい」「好きな授業がある」とする児童生徒の割合は、昨年度に引き続き全国平均を上回っており、多くの児童生徒が学校生活を肯定的に捉えている。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」と回答した割合は、小学校では全国平均を下回っている。
- ・「月～金において、授業以外に1時間以上（中学校は2時間以上）の学習」をしている児童生徒の割合は増加しているものの、中学校においては、昨年度までと同じく全国平均を下回っている。
- ・「テレビゲームの使用が1時間未満」「携帯電話やスマートフォンの使用が1時間未満」の児童生徒の割合は、全国平均を大きく上回っているものの、携帯電話やスマートフォンの使用時間は、全国と同様に小・中学校ともに増加傾向にある。

平成29年度 小学6年生・中学3年生の学習状況・生活習慣等の調査結果  
(全国学力・学習状況調査 質問紙調査からの抜粋)

【道徳性や規範意識】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H28			H29			H28			H29		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 人の役に立つ人間になりたい	95.0	93.8	+1.2	93.2	92.5	+0.7	95.0	92.8	+2.2	94.3	91.9	+2.4
2 いじめはどんな理由があってもいけない	97.3	96.6	+0.7	96.6	96.1	+0.5	95.5	93.6	+1.9	94.7	92.8	+1.9
3 人が困っているときに進んで助ける	85.0	84.6	+0.4	86.4	85.3	+1.1	85.0	83.8	+1.2	85.7	84.4	+1.3

【学校生活について】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H28			H29			H28			H29		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 学校に行くのは楽しい	88.0	86.3	+1.7	87.9	86.3	+1.6	85.4	81.4	+4.0	85.0	80.9	+4.1
2 友達に会うのが楽しい	96.6	96.2	+0.4	96.8	96.4	+0.4	95.9	94.7	+1.2	96.1	94.6	+1.5
3 好きな授業がある	94.3	93.5	+0.8	93.2	93.0	+0.2	82.4	79.9	+2.5	80.6	79.2	+1.4
4 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う	88.5	87.6	+0.9	88.2	88.2	0.0	86.5	84.9	+1.6	89.0	87.8	+1.2
5 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	75.5	76.1	-0.6	74.5	76.2	-1.7	63.3	63.1	+0.2	66.8	66.1	+0.7
6 国語の授業の内容はよく分かる	78.3	80.7	-2.4	80.4	82.2	-1.8	72.0	74.1	-2.1	73.0	74.9	-1.9
7 算数(数学)の授業の内容はよく分かる	81.1	80.2	+0.9	81.2	80.6	+0.6	71.6	69.4	+2.2	72.1	69.4	+2.7

【基本的な生活習慣など】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H28			H29			H28			H29		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 毎日朝食を摂取	95.4	95.5	-0.1	95.4	95.4	0.0	95.2	93.3	+1.9	94.8	93.2	+1.6
2 授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)	65.7	62.5	+3.2	66.3	64.4	+1.9	29.8	34.2	-4.4	30.0	35.4	-5.4
3 テレビやビデオ、DVDの視聴時間が1時間未満(月～金)	14.0	15.9	-1.9	15.4	16.9	-1.5	20.4	20.5	-0.1	20.2	20.7	-0.5
4 テレビゲームの使用が1時間未満(月～金)	53.7	45.1	+8.6	51.9	44.4	+7.5	54.1	42.9	+11.2	51.4	40.9	+10.5
5 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの使用が1時間未満(月～金)	85.2	81.5	+3.7	83.2	79.4	+3.8	61.0	51.9	+9.1	58.4	49.5	+8.9



学校で、4年生以上の学年について、ハンカチとティッシュペーパーを持ってきているかどうかについて調べました。

ゆうじさんは、調べた結果を次のようにまとめました。

ハンカチ・ティッシュペーパーを持ってきた人数 (人)

学年	ハンカチを持ってきた	ティッシュペーパーを持ってきた	両方持ってこなかった	学年の人数
4年	40	47	2	52
5年	62	61	1	70
6年	52	57	1	60



さくら

ゆうじさんが作った表には、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数が書いてありません。

さくらさんは、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた人数を求めるために、表をまとめ直すことにしました。

下の表は、5年生の結果をまとめ直したものです。

5年生のハンカチ・ティッシュペーパー調べの結果 (人)

		ティッシュペーパー		合計
		持ってきた	持ってこなかった	
ハンカチ	持ってきた	ア	イ	62
	持ってこなかった	ウ	1	エ
合計		61	オ	70

さくらさんは、表をもとに次の式をつくり、ハンカチとティッシュペーパーを両方持ってきた5年生の人数を54人と求めました。

【さくらさんの式】

$$70 - 61 = 9$$

$$9 - 1 = \underline{\underline{8}}$$

$$62 - 8 = 54$$

【さくらさんの式】の中の、「9」は、ティッシュペーパーを持ってこなかった人数の合計を表しています。この「9」は表のオにあてはまります。

(1) 【さくらさんの式】の中の、「8」はどのような人数を表していますか。

言葉を使って書きましょう。

また、この「8」は、表のどこにあてはまりますか。アからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

1 青山さんは、学校図書館で図書委員の生徒が作った【本の紹介カード】を見て、実際にその本を読んでみました。次は、そのときに青山さんが見た【本の紹介カード】と、青山さんが読んだ【本の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の紹介カード】

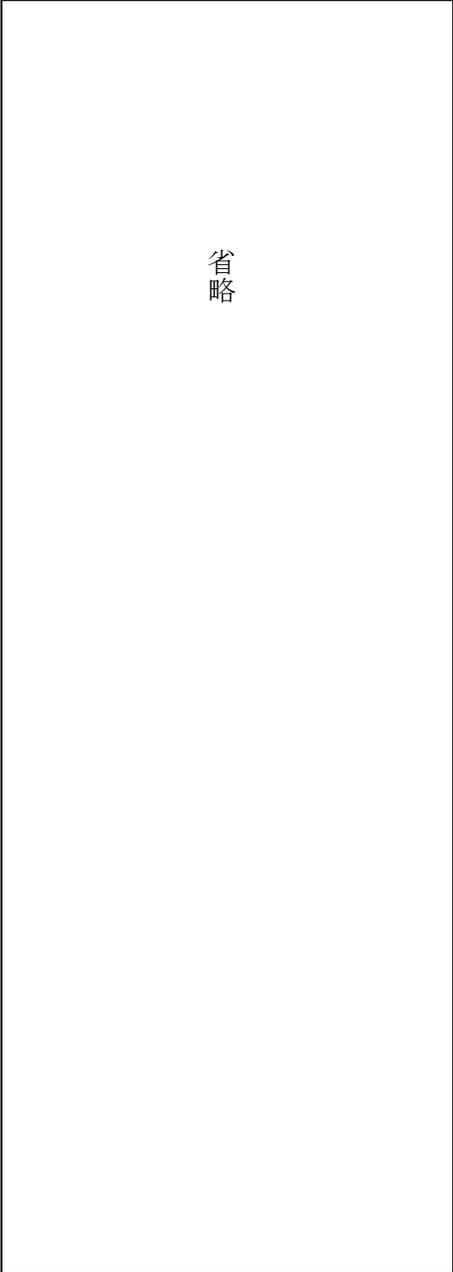
# 自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。



比喻を用いた表現も素敵です!

【本の一部】



省略

三 青山さんは、【本の紹介カード】にある「比喻を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いていきます。あなたなら【読書の記録】の「心に残った一文」と「感想」にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「心に残った一文」は、【本の一部】から、比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 「感想」は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

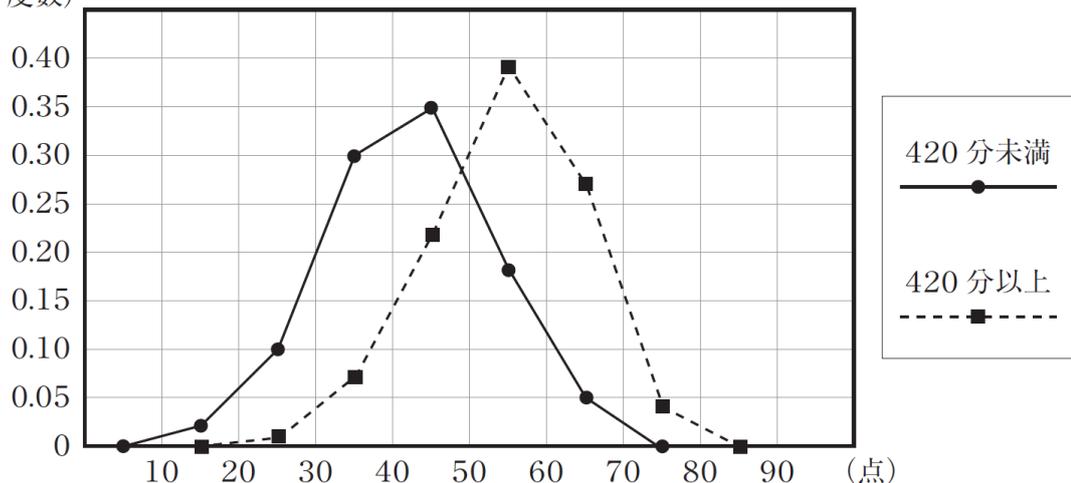
(3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
以上 未満				
10～20	1	0.02	0	0.00
20～30	6	0.10	1	0.01
30～40	18	0.30	6	0.07
40～50	21	0.35	19	0.22
50～60	11	0.18	33	0.39
60～70	3	0.05	23	0.27
70～80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

若菜さんが作った度数分布多角形

(相対度数)



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。